
京都府南部ため池群における淡水ガメ種構成の変遷

多田哲子¹・坂雅宏¹・西堀智子²

¹ 京都府保健環境研究所水質課

² 和亀保護の会

Chronological changes in species composition of freshwater turtles in suburban ponds in the southern part of Kyoto Prefecture.

By Noriko TADA¹, Masahiro SAKA¹ and Tomoko NISHIBORI²

¹ *Division of Aquatic Environment, Kyoto Prefectural Institute of Public Health and Environment*

² *Wagamehogonokai*

日本のほぼ全域に分布している外来種のミシシippアカミミガメは、在来の淡水ガメと共通するニッチ（生態的地位）を占めており、その生存を脅かす可能性が指摘されるとともに、レンコンなどの農作物についても深刻な食害を引き起こしている。平成 27 年 7 月、環境省は本種を「緊急に対策を要する外来生物」に指定し、生息実態調査と段階的な防除対策を講ずるためのプロジェクトを開始した。京都府内では、淡水ガメの種構成について、1999 年に府南部のため池において、トラップ捕獲方式による野外調査を京都大学が実施しており、ミシシippアカミミガメは稀に見つかる種であったことが報告されている。本研究では、当時と同じ調査地において、同じ手法による調査を行い、1999 年の調査結果との比較により種構成の変遷を把握した。今回の調査で、ミシシippアカミミガメの個体数は、捕獲された淡水ガメの総個体数の 50% を占め、劇的な個体数の増加が確認された。一方、在来の淡水ガメ、とくに日本固有種であるニホンイシガメの個体数は著しく減少していることが判明し、外来種による在来種の個体増加度に対する負の影響が示唆された。さらに、在来の淡水ガメ、特にニホンイシガメにおいて、前肢・後肢が欠損している個体が頻繁に発見された。調査地周辺に残されたほ乳類の足跡や、近隣農家での目撃情報から、このような前後肢の欠損は、特定外来生物に指定されているアライグマの攻撃により生じた疑いが強い。すなわち、在来の淡水ガメにとって、ミシシippアカミミガメとアライグマの 2 種の外来生物が大きな脅威となっている可能性が強く示唆された。